

男女差別のない世界へ

雲南市立加茂中学校 一年 梶谷由奈

今の社会には、「女らしく」という言葉が存在しています。この言葉を使う人は、悪気があって言っている訳ではないと思います。ですが、その言葉により窮屈に感じている人もいます。私も、学校の制服で周りの女の子達と同じようにスカートを穿いているけれど、自分は、ズボンを穿きたいと思っています。それを「女の子なんだから」と言われるのが嫌いです。

小学生の時、盲導犬を飼っておられる方に話を聞くという授業がありました。その時(あ、目が見えない方が来られるんだ。)と思ってしまった自分がいました。私は、自分が「女の子だから」と言われるのがあれだけ嫌だったのに、自分よりも体が不自由な方を無意識のうちに自分よりも下に見てしまったことがとても恥ずかしくなりました。

体が不自由だったとしても、健康な方々と何一つ変わらない生活をしている人に、私はなんてひどい事を考えてしまったんだろうと思いました。

私のように、今の社会では「みんなと違っていいんだよ。」と言っている人はたくさんいますし、「女らしく」「男らしく」という言葉で嫌な思いをする人もいます。でも、この自分の言っていることや思っていることに、無意識のうちに矛盾してしまっている人が多くいると私は思います。自分も、矛盾してしまっている人達の一人でした。

私は、そういう事をしてしまうのはなぜなのかと考えました。言葉では、「障がいのある方は、私たちと同じなんだよ。」という優しい言葉を使う事ができます。

でも、きっと心の奥底で(あの人は私たちとは違う。)(優しくしてあげないと。)と考えてしまっているんだろうなと思います。それが、表に出ないだけでいつも心に引っかかかっていて、それがポロッと崩れてしまうとひどいことを言ってしまうたり、心にもない事を口走ってしまうんだろうなと自分は考えます。

こうして、「女らしい」ということについて考えることで、周りの意見に流されることのない自分としての意見に改めて気付くことができました。私は、「女らしい」「男らしい」という言葉が苦手だから障がいがある人に対して変な目を向けることはない、そんなことはないのだと実感しました。

今、男女で区別されているのは学校だけではありません。会社や政治の世界でも女性がなぜか男性よりも下に見られてしまうのです。これは、おかしい事です。男女で区別してしまうと自分の能力や得意なことを、十分に発揮することができない人がたくさん出てくるからです。自分の能力を発揮することのできない社会より、発揮することのできる社会の方が、絶対にもっといい社会になると思います。

私は、男女で区別されることのない世界になってほしいと思います。ですが、自分に世界を変えることができるほどの力なんてありません。周りの数人を納得させることも難しいかもしれません。でも、そんな私にもできることをきちんと考えて、まず自分一人からでも

意識を変えていきたいです。